

# 会 告

# 社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	8月2日(日) ~7日(土)	水工学に関する夏期研修会(北海道支部共催)	札幌市	6号4ページ参照
	8月9日(月) ~14日(土)	同	"	"
	8月26日(木) ~27日(金)	昭和40年度夏期講習会	東京	6号2 "
	10月20日(水) ~21日(木)	第8回地震工学研究発表会	土木学会	6号5 "
関東支部	6月18日(金)	講演会「海外進出の問題点」	土木学会	5号5 "
	6月19日(土)	学生のための映画会	"	5号5 "
	7月7日(水)	シールド工法の現状と問題点	"	5号5 "
	7月17日(土)	学生のための映画会	前橋市	6号5 "
そ の 他	9月6日(月) ~8日(水)	第15回応用力学連合講演会	東京大学	5号3 "
	9月9日(木) ~10日(金)	第9回材料試験連合講演会	東京	5号4 "
	10月28日(木) ~30日(土)	第14回レオロジー討論会	仙台	6号83 "
お知らせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第3回世界地震工学会議のプロシーディングス購入について</li> <li>■昭和40年版土木学会会員名簿発刊について</li> <li>■第12回海岸工学講演会講演募集</li> <li>■第10回海岸工学国際会議論文募集</li> <li>■土木図書館講堂公開</li> <li>■第2回国際水質汚濁研究会議報告書ご希望の方へ</li> </ul>			5号6 " 6号2 " 6号3 " 6号3 " 6号7 " 6号7 "
	<p><b>■土木工学ハンドブック正誤表完成</b></p> <p>大変長らくお待たせ致しましたがこのたび土木工学ハンドブックの正誤表がようやく完成いたしました。A5判40ページで図版の訂正も入っております。ハンドブックお買求めになった会員には別途出版社より送付させましたが、未着の方は至急下記へお申出下さい。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p style="text-align: center;">東京都港区赤坂溜池5 KK技報堂出版部ハンドブック係 Tel. 583-3834・8585</p>			
出版案内	<p><b>■土木図書館へ蔵書ご寄贈方お願い</b></p> <p>土木図書館が業務を開始してから4ヵ月、利用者も日増しにふえ関心も非常に高まって参りました。学会としての創立50周年記念事業費予算より相当な額を図書整備費に回し、皆様のご期待にそえるような土木工学総合図書館の実現へ努力いたしております。しかしながら過去数十年間にわたり発行された文献はぼう大な数に上り、さかのぼって収集することはとおいて不可能であります。そこで会員各位から、蔵書の一部を学会へご寄贈いただくことができれば、より有効な活用が計れるものと考え、お願い申上げる次第です。</p> <p>重複をさけるため種類、内容などご寄贈いただけるもののリストをお送り願えれば図書館で整理し改めてお願いすることになります。とくに明治・大正・昭和初期、太平洋戦争時の文献はきわめて不足しておりますので、先盟会員各位のご協力を切望いたします。</p> <p>ご連絡は土木図書館(東京都新宿区四谷1丁目・351-5130)へお願い致します。</p>			
	<p><b>■工事報告 大鳥セミアーチダム完成</b></p> <p>このたび電源開発KK編集による標記の図書が土木学会より刊行されました。限定出版につきご希望の方は早めに土木学会へお申込み下さい。</p> <p>体 裁: B5判 226ページ 折込付図11枚 原色版カラー カバー付 口絵入り</p> <p>定 価: 1400円(〒150円) 会員特価: 1200円(〒150円)</p>			

## 昭和 40 年度夏期講習会

◀ 8 月 26 日 (木) ~ 27 日 (金) ▶

今年の夏期講習会は 8 月 26, 27 日の 2 日間下記のとおり開催することに決定致しましたので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 会 場：東京都豊島区 豊島公会堂
2. テー マ：構造工学における最近の諸問題
3. 参加費：未 定 (会員 2,000 円, 一般 3,000 円程度の見込み)
4. 内 容：

### 8 月 26 日 (木)

9.30~9.40	会長 あいさつ	土木学会会長	岡 部 三 郎
9.40~10.30	最近のコンクリート舗装	建設省土木研究所	伊 東 茂 富
10.40~11.30	軽量コンクリートの諸問題	東北大学教授	後 藤 幸 正
11.40~12.30	高張力異形鉄筋について	東京大学教授	国 分 正 胤
13.30~14.20	最近の支保工および型わく	首都高速道路公団	上 前 行 孝
14.30~15.20	最近のコンクリート泥和材料	国鉄鉄道技術研究所	三 浦 一 郎
15.30~16.20	最近の注入工法における諸問題	国鉄鉄道技術研究所	樋 口 芳 朗

### 8 月 27 日 (金)

9.30~10.20	最近の鋼構造の継手	京都大学教授	小 西 一 郎
10.30~11.20	高張力鋼使用上の問題点	建設省土木研究所長	村 上 永 一
11.30~12.20	薄板構造の設計施工における諸問題	東京大学教授	奥 村 敏 恵
13.20~14.10	鋼杭基礎工法における諸問題	八幡製鉄KK	石 井 靖 丸
14.20~15.10	鋼橋架設上の問題点	横河工事KK	田 中 五 郎
15.20~16.10	構造物の耐震設計および工法	東京大学教授	久 保 慶 三 郎
16.10~16.20	閉会 あいさつ		

## 昭和 40 年版土木学会会員名簿発刊について

昭和 40 年版土木学会会員名簿は、下記要領によって本年 11 月上旬発行の予定で、目下その準備にかかっております。名簿は会員の皆様の異動等について密接なご連絡がなければ正確を期しがたいのであります。日常多くの異動ご通知に接し遅滞なく整理いたしておりますが、毎月発送の会誌が若干返送されてくるところから見て、異動のご連絡のない方があるよう見うけられます。また住居表示、役職名、電話番号等の変更についてのご連絡もれもあるかと思われま。名簿の正確を期すため、改めて登録事項についてご通知いただきたく、本誌にハガキを挿入いたしました。7 月 31 日までに学会に到着するようご協力のほどお願いいたします。

### 土木学会会員名簿業界案内欄 (広告) 掲載依頼について

従来土木学会会員名簿には、業界案内欄を設け、会員が常に関心をもっている関連各業界の全貌を紹介して、非常に好評を博しております。本年 11 月上旬その昭和 40 年版を下記要領によって発刊いたしますが、一層完璧な業界案内欄といたしたいと念願いたしますので、特別会員各位はじめ一般業界各位のご賛同とご協力を切望いたします。いづれくわしいことは、別途ご連絡いたしますから何分よろしくお願ひ申し上げます。

### 昭和 40 年版土木学会会員名簿発刊要領

#### (1) 内 容

1. 学会要項：定款、規則および諸規定、役員、評議員、支部役員、各委員会委員、歴代会長、土木賞受賞者、吉田賞受賞者、職場班、事務局
2. 会員名簿：①名譽会員および正会員の学位、氏名、出身校、卒業年次、勤務先、役職名、住所、電話

②学生会員の氏名, 学校名, 連絡先 ③特別会員の名称, 級, 所在地, 電話 ④賛助会員の名称, 所在地, 電話

3. 関係機関: ①国会, 中央官庁, 公共企業体, 政府関係機関および地方自治体の名称, 所在地, 電話, 関係局  
部課名 ②学校の名称, 所在地, 電話, 関係部科名 ③研究機関の名称, 所在地, 電話  
④学会および協会の名称, 所在地, 電話

4. 業界案内: 電力会社, コンサルタント業, 建設業, コンクリート工業, 橋梁水門製作業, 測量業, 建設機械  
業, 建設材料業, 諸工事業その他の名称, 代表者, 営業種目, 所在地, 電話

- (2) 大きさ, 体裁: A5判7ボ横組700ページ程度  
(3) 頒布価格: 学生会員250円(送料150円) 会員外600円(送料150円)  
(4) 発行期日: 昭和40年11月上旬  
(5) 申込所: 土木学会会員課(東京都新宿区四谷1丁目 振替東京16828)

## 第12回海岸工学講演会講演募集

◀11月中旬▶

第12回海岸工学講演会は11月中旬名古屋市において開催することになりました。講演ご希望の方はつぎの要領によりふるってご応募下さい。

1. 講演申込期日: 1965年7月31日(土)
2. 講演原稿締切: 1965年8月14日(土)
3. 講演申込みおよび原稿について:
  - ① 講演申込みは7月31日(土)までに講演題目・著者名(連名の場合は登壇者に○印を付ける), 予定ページを記入してハガキで下記申込先へお申込み下さい。
  - ② 同一題目の講演を一緒に2編以上提出しても受けません。
  - ③ 原稿1編の長さは原則として刷上り6ページ以内(400字詰原稿用紙30枚以内・図表・写真をふくむ)とします。
  - ④ 原稿の内容により6ページ以内に収録することが困難な場合は著者の希望により10ページまでの超過を認めますが, この場合は著者に超過1ページにつき1500円負担していただくか, 超過1ページあたり講演集を2冊お買上げいただきます。
  - ⑤ 図面は必ジスミ入れし, 説明文字は鉛筆書きにして下さい(図面のスミ入れが困難な場合は費用をご負担いただければ当方でいたします)。
  - ⑥ 原稿には必ず超過希望の有・無を明記して下さい。
  - ⑦ 別刷は希望により実費で差し上げますので原稿に必要部数をご記入下さい。
  - ⑧ 著者校正ご希望の方はその旨明記して下さい。
4. 申込先: 東京都新宿区四谷一丁目 土木学会海岸工学講演会係

## 第10回海岸工学国際会議論文募集について

第10回海岸工学国際会議(10th Conference on Coastal Engineering)は, 明年9月上旬に東京(または東京近く)で開かれることになりました。この会議に論文発表希望の方は, 論文題目と, タイプ用紙1ページ以内のアブストラクト(英文または仏文)6通を1966年1月末日までに下記宛にお送り下さい。

Prof. J.W.Johnson, Secretary Coastal Engineering Research Council 412, Hesse Hall  
University of California Berkeley 4, California U.S.A.

送られたアブストラクトは論文委員会(日本からの委員は本間 仁教授)にまわされますので, 期日に遅れないよう, 早目にご用意下さい。会議の参加費は20~25ドルの予定です。

なお, 不明の点は下記にお問合せ下さい。

第10回海岸工学国際会議組織委員会 委員長 本間 仁教授  
東京都文京区東京大学工学部土木教室内 電 812-2111 内線 3221

## 水工学に関する夏期研修会

◀8月2日(月)~7日(土), 9日(月)~14日(土)▶

水理学に関する最近の高度の知識を研さんし、その水工技術への応用を図るために昨年京都市において開催された第1回水工学夏期研修会の好評に応え、本年度も水理委員会および北海道支部の共催のもとに、下記の要領により、第2回水工学に関する夏期研修会を開催致します。関係各位の絶大なご協力をお願い致します。

1. 場 所：札幌市北12条西8丁目 北海道大学工学部 電話(0122)71-2111
2. 研修内容の程度：大学院修士、博士コース程度(本年度は応用面に重点をおきます)
3. 題目と講師および日程表：

(1) ダム、河川コース(1965年8月2日(月)~7日(土))

日 時	午前 9.00~12.00	午後 1.30~4.30
2日(月)	ダムの Spillway の設計 東北大学工学部教授 工博 岩 崎 敏 夫	ダムの outlet works の設計 北海道大学工学部教授 工博 山 岡 勲
3日(火)	ダムにおける sedimentation 京都大学防災研究所教授 工博 戸 田 和 男 京都大学防災研究所助教授 工博 土 屋 義 人	河川流出の例題解説 京都大学工学部教授 工博 石 原 安 雄
4日(水)	開水路流れの例題解説 京都大学工学部教授 工博 岩 佐 義 明	護岸、水制、床固めの水理機能 建設省土木研究所河川部長 工博 吉 川 秀 夫
5日(木)	湾曲水路の流れ 北海道大学工学部教授 工博 岸 力	北海道における河川工事の特色 北海道開発局建設部長 町田利武
6日(金)	水門、樋門の工法、設計例 名古屋大学工学部教授 工博 西 畑 勇 夫	特別講演 I
7日(土)	密度流論 東京大学工学部教授 工博 嶋 祐 之	修了式、懇親会

(2) 海岸、港湾コース(1965年8月9日(月)~14日(土))

日 時	午前 9.00~12.00	午後 1.30~4.30
9日(月)	波浪推定法例題解説 九州大学工学部教授 工博 井 島 武 士	波浪スペクトル論とその応用 運輸省港湾技術研究所水理研究室長 工博 浜 田 徳 一
10日(火)	浜 砂 論 東京大学工学部助教授 工博 堀 川 清 司	浜砂測定法 北海道大学工学部教授 理博 福 島 久 雄
11日(水)	波 圧 論 運輸省港湾技術研究所 理博 光 易 恒	消波構造論 北海道大学工学部教授 工博 尾 崎 晃
12日(木)	波 動 論 北海道大学工学部教授 工博 岸 力	北海道における海岸の諸問題 北海道開発局港湾部長 穴益正吉
13日(金)	海岸堤防論 京都大学防災研究所教授 工博 岩 垣 雄 一	河口密度流論 北海道大学工学部教授 理博 柏 村 正 和
14日(土)	高潮および津波論 大阪大学工学部教授 工博 室 田 明	特別講演 II 修了式、懇親会

特別講演の講師：

- I 京都大学工学部教授・防災研究所長 工博 石原藤次郎 II 東京大学工学部教授 工博 本間 仁
4. 定 員：ダム・河川コース、海岸・港湾コースとも各100名
  5. 参 加 費：1コースにつき5000円(ただしテキスト代を含む)
  6. 申 込 方 法：受講希望者は勤務先、連絡先、氏名、およびコース名(ダム・河川コースまたは海岸・港湾コース)明記のうえ、1コースにつき参加費5000円をそえてお申込み下さい。
  7. 申 込 先：土木学会北海道支部(札幌市平岸無番地 北海道開発局土木試験所内 電話(0122)83-4161(内線120)、振替口座 小樽20603番)
  8. 申 込 期 日：1965年7月15日(木)
  9. そ の 他：テキストのみの頒価は未定です(追って会告)

## 第8回地震工学研究発表会講演募集

◀10月20日(水)~21日(木)▶

土木学会耐震工学委員会では、下記により第8回地震工学研究発表会を開催いたしますので、発表ご希望の方は、ふるってご応募下さい。

1. 場 所：土木学会土木図書館講堂

2. 募集規定：

(1) 講演内容：理論、実験、研究、耐震設計の実例、復旧工事、震害等

(2) 申込方法：7月31日(土)までに、題目、講演者氏名、勤務先を明記し、土木学会耐震工学委員会にお申込み下さい。

3. 講演概要原稿締切：8月31日(火)

講演内容がわかるように講演概要はオフセット印刷とします。原稿はなるべく研究の考え方を主とし、原稿の長さは1題目2ページ以内(図表を含み約2800字)を所定の原稿用紙にスミ書きにして下さい。特に超過する場合は、超過2ページまでは1000円の実費を原稿提出の際に添付願います。原稿の採否は、土木学会耐震工学委員会にご一任下さい。なお、講演時間は、15分~20分(質問時間を含まず)の予定です。

## 関東支部行事案内

(東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事業課内・電話東京 351-5138)

### (1) シンポジウム「シールド工法の現状と問題点」 ◀7月7日(水) 9.30~16.30 ▶

1. 場 所：発明会館ホール(東京都港区芝西久保明舟町17・電 502-0511)

2. 定 員：300人

3. 参 加 費：1000円(テキスト代をふくむ)、テキストのみの価格 800円

4. 題 目、講師：

I セグメント設計上の問題点

A 構造関係	(1) 東京大学 久保慶三郎	B 土質関係	(3) 京都大学 村山朔郎
同	(2) 早稲田大学 村上博智	同	(4) 早稲田大学 森 麟

II シールド施工計画上の問題点

A 一 般	(5) 帝都高速度交通営団工事部長	西嶋国造
B 国鉄新総武線計画	(6) 国鉄東京工事局長	田中行男

III シールド製作上の問題点

(7) 三菱重工業KK機械事業部顧問	小竹秀雄
--------------------	------

IV 東京におけるシールド工事の現状

A 上水道のシールド工事	(8) 東京都水道局建設部設計第2課長	中川義徳
B 下水道のシールド工事	(9) 東京都下水道局第4建設事務所工事課長	糸崎郁二
C 地下鉄のシールド工事	(10) 帝都高速度交通営団5号線第6工事区長	塚田 章

5. 申込方法：8月25日(金)までに参加費を添えて土木学会関東支部へお申し込み下さい。参加券とテキスト引換券を送ります。満員になり次第期日前でも締切りますから早目にお申込み下さい。

### (2) 学生のための映画会(第7回)

◀7月17日(土) 13.00~16.00 ▶

第7回学生のための映画会は群馬県前橋市において開催いたします。地元学生諸君のほか一般会員のご観賞をおすすめいたします。

1. 場 所：前橋市立工業短期大学講堂(群馬県前橋市岩神町1084)

2. 上映映画：①日本の都市建設 ②川はつくられる ③くろよん ④新潟地震 ⑤その他1~2編

3. 参 加 費：無料

# 創立 50 周年記念事業資金寄附応募者芳名録

(昭和 39 年 12 月 1 日～昭和 40 年 4 月 30 日受付分, 敬称略)

## 団 体 の 部

### 総合建設

千円  
 1500 株式会社 熊谷組 (東京都)  
 1500 株式会社 間組 ( )  
 800 株式会社 銭高組 (大阪府)  
 500 株式会社 鴻池組 ( )  
 400 安藤建設 株式会社 (東京都)  
 400 株式会社 松村組 (大阪府)  
 100 梅林建設 株式会社 (大分県)

### 埋立

200 株式会社東海事業所 (愛知県)  
 125 泰生開発 株式会社 (東京都)

### 橋梁

100 株式会社栗本鉄工所 (大阪府)

### 電力

50 電力中央研究所 (東京都)

50 住友共同電力株式会社 (愛媛県)

### 私鉄

150 京王帝都電鉄株式会社 (東京都)  
 150 西日本鉄道株式会社 (福岡県)

### セメント

1500 セメント協会 (東京都)

### 鉄鋼

300 住友金属工業株式会社 (大阪府)  
 250 川崎製鉄 株式会社 (兵庫県)  
 150 尼崎製鉄 株式会社 (大阪府)

### 建設機械

1000 株式会社神戸製鋼所 (兵庫県)  
 300 久保田鉄工株式会社 (大阪府)

### 協会

100 関東生コンクリート協会 (東京都)

### 特別会員

50 日本鉄道建設公団 (東京都)

50 阪神高速道路公団 (大阪府)  
 30 双葉鉄道工業株式会社 (東京都)

### 都道府県

300 兵庫県  
 200 福島県  
 200 新潟県  
 200 千葉県  
 100 岩手県  
 100 東京都建設局  
 100 和歌山県  
 100 香川県  
 100 高知県  
 100 宮崎県

### 市

50 浦和市  
 50 長崎市  
 合計 11355000円

## 個 人 の 部

### 5400円

橋爪太三郎

### 5000円

泉谷平次郎

### 3000円 (23名)

浅尾 格 石川 時信 浮田 祐二 上田 秀正  
 岡部 二郎 落合 伊作 鎌田 恒 神田九思男  
 倉田 主税 佐藤 史 斎藤 四郎 庄司睦太郎  
 榎葉 朗 瀬良 茂 竹ヶ原輔之夫 橋 善雄  
 永井荘七郎 成瀬 勝武 福岡 慶一 村上 治祥  
 保田 勝夫 吉田 登 好井 宏海

### 2000円 (5名)

伊東 正信 佐田 悦二 辻内辰次郎 福林 貞三  
 吉開 正文

### 1500円 (27名)

大関 孝一 帯 猛 加茂 金吾 柿本 仁臣  
 金子 越郎 小林 春夫 小松 定夫 近藤 喜平  
 斎藤昭太郎 重富 行雄 谷岡 幸重 中村 春樹  
 中山 隆 丹羽 義次 日浅 経義 福島 久雄  
 福留 秀夫 町田 利武 三笠 正人 水野 俊一  
 宮尾 和夫 村上喜千雄 村上 譲 安山 信雄  
 柳沢 一誠 山下 晃 山田 勝男

### 1000円 (36名)

脊柳 晃喜 赤川 文男 芦田 和男 新井 俊  
 栗津慶二郎 井上 洋里 石田 昭 板垣 浩三  
 馬越 道也 大西 一央 大部 瑛治 岡田 徹夫

奥西 充彦 角屋 睦 上村 正人 川上 敬之  
 河合昭次郎 木地 晴彦 来島 武 京阪 元宇  
 佐藤 昭 佐藤 照雄 鈴木 晃 高山 昭  
 戸村 倭夫 徳田 稔之 豊島 修 名取 善雄  
 西条 正雄 林 吉見 真鍋 恭平 松崎 茂樹  
 三輪雄次郎 本 光利 山内 克一 芳村 仁

### 800円

宮田悦司朗

### 700円

大久田和馬

### 500円 (59名)

安土喜二郎 安藤 正規 井上 克之 池田 利博  
 石井 英雄 一本英三郎 稲葉 治雄 今村 宏司  
 今村 瑞穂 宇都木基宏 内田 辰英 小原 治男  
 大崎 邦彦 大島 怜児 加藤 征喜 堀田 俊夫  
 蔵持 慈男 栗田 芳治 栗山 公伸 黒木 正文  
 黒崎 徳三 小林 勲 渋谷 善夫 下村嘉平衛  
 新保 正明 関口 康夫 田中 千護 竹村 陽一  
 種谷 正 丹治 昭雄 土屋 敬 筒井 幹直  
 徳田 弘 奈良平俊彦 中井 博 中野宗四郎  
 南条 毅一 菫沢 麻皓 野口 昌宏 野中 哲  
 長谷川武彦 長谷川智明 橋田 武洋 島山 昭三  
 花井 永吉 福田 勝年 藤波 昌 卷上 安彌  
 松井 滋明 松橋武智雄 松原 晋三 松村 勝夫  
 村田 広治 森 薫 森川 慎吾 山崎 脩  
 山谷 卓朗 吉田 敏夫 吉田 敏雄

前回訂正

50巻1号(40年1月号)p. 219~229の内、氏名および金額  
をつぎのとおり訂正

6000円

真井 耕象

5000円

沼田 政矩

3000円

安藤忠次郎 大塚 全一 姫野 正 村山 朔郎

森沢 勇

2000円

友岡 正介

1500円

石井 靖丸 篠塚 遼 山川 尚典

1000円

井手 正男 石川 卓二 熊井 知次 佐竹 義男

作田 祐真 杉田有一郎 土屋 昭 中本 正則

西谷 哲之 正生 貞樹 八田 昭一 柳沢 貞司

吉田 恒夫 吉元 実

500円

井崎 正之 岩花 正和 来馬 章雄 小寺 健右

下岡 清昭 日置 克幸 前田 依彦 吉村 清宏

450円

山岸 重雄

300円

足立 隼夫

13500円

島根県土木部(三井庄造外 34名)

## 土木図書館講堂公開

土木図書館講堂は図書館活動にふさわしい催物について広く一般に公開いたします。文化施設を有効に活用するため会員各位ならびに関係方面のご利用を期待いたします。使用料その他は下記のとおりです。

### 土木図書館講堂使用料

#### 講 堂(定員200人)

使用者	平 日				土 曜 日				日 曜 日, 祝 日			
	午前	午後	夜間	全日	午前	午後	夜間	全日	午前	午後	夜間	全日
	9.30~ 12.30	13.00~ 16.30	17.00~ 20.00	9.30~ 20.00	9.30~ 12.30	13.00~ 16.30	17.00~ 20.00	9.30~ 20.00	9.30~ 12.30	13.00~ 16.30	17.00~ 20.00	9.30~ 20.00
一 般	3500	4500	5000	10000	3500	5000	5500	12000	4500	5000	5500	13000
関 係 団 体	2400	3000	3500	7000	2400	3500	3800	8500	3000	3500	3800	9000

#### 附 属 設 備

ワイヤレスマイク	1 回 に つ き	500
スライドプロジェクター	"	1000
持込電気器具電力料	1kW 時 に つ き	50
暖 房 料	1 時 間 に つ き	500
冷 房 料	"	250

1. 講堂の使用は図書館活動にふさわしい催物であること。
2. 上表の関係団体とは、官公庁、公共企業体、政府関係機関、および関係学協会(本会共催を含む)とする。
3. 日曜日、祝日は原則として使用を認めない。
4. 所定の時間を越える使用は原則として認めない。
5. 使用申込は原則として使用日の2ヵ月前から受け付ける。
6. 使用申込は所定の申込書に使用料を添えて提出すること。
7. すでに納めた使用料は特別な事由があると認められた場合は半額を返金する。
8. 講堂使用に関連して会議室を使用する場合の料金は別の定めによる。